

第41回

不戦を誓う三多摩集会

1941年12月8日、日本は真珠湾に奇襲攻撃を行い、太平洋戦争に突入しました。

日中戦争から敗戦までの侵略戦争の結果、アジアでは約3000万人、日本では約300万人余が犠牲になったといわれています。

私たちは12月8日を二度と戦争をしないことを誓う「不戦の日」として、毎年様々な取り組みをすすめてきました。

今回は自民党が目論む「戦争ができる国づくり」とは?!新政権は何をするのか?会場でしか聞けない報道を企画しました。ぜひ、お誘い合わせの上、ご参加下さい。

日時

2021年12月8日(水)

開会 18時30分 (開場 18時00分)

場所

国分寺市立
いずみホール

(JR西国分寺駅南口・徒歩2分)

新型コロナウイルス対策

*マスクの着用 *検温 *手洗い
ご協力をお願いします。



講演

【新政権の下！防衛論はどうなる!?】〈仮称〉

講師：半田 滋氏

(防衛ジャーナリスト／元東京新聞論説兼編集委員)

- ◎1955年（昭和30）年生まれ。防衛ジャーナリスト。
- ◎元東京新聞論説兼編集委員。獨協大学非常勤講師。
法政大学兼任講師。
- ◎防衛省・自衛隊、在日米軍について多くの論考を発表している。
- ◎2007年、東京新聞・中日新聞連載の「新防人考」で第13回平和・協同ジャーナリスト基金賞（大賞）を受賞。



半田 滋^{ひん}

[はんだ しげる]

・主な著書・

- 『零戦パイロットからの遺言
— 原田要が空から見た戦争』（講談社）
- 『日本は戦争をするのか
— 集団的自衛権と自衛隊』（岩波新書）
- 『僕たちの国の自衛隊に21の質問』（講談社） など

「裁判官の独立と安保法制の違憲判決を求める緊急要請」へ賛同を！

「集団的自衛権の行使」を容認した安保法制により、日本は平和国家から確実に軍事国家に進もうとしています。また、内閣は議会軽視、国会は議論を軽視する多数派の横暴が強まっています。

そうした状況を是正する上でも、憲法の番人・個人の尊厳と人権を守る最後の砦として政府や国会の過ちをただすべき裁判所がその役割を果たすときです。しかし、全国各地で提訴されている安保法制違憲訴訟では、申し合わせでもあるかのように、安保法制の違憲性と危険性に真剣に向き合わず、違憲判断を避ける判決が相次いでいます。

違憲の安保法制によって国民の権利が侵害されたことに正面から向き合う判決がされるよう、賛同（署名）をよろしくお願いいたします。